

The Sense of Wonder

中島喜美子

高知大学医学部皮膚科学講座准教授

Rachel Carsonは、美しいもの、未知のもの、神秘的なものに目を見張り、自然界の美しさや不思議を感じとる感性、子どもたちへの一番の大切な贈りものを、Sense of Wonderと語りました。Sense of Wonderは、科学者にとっても大切な感覚です。「ふかぶかとクロッカスの花に見入りたりまこと『細部に神は宿る』」(小池光)。一輪の花の美しさに感動することと、海の深い深淵にあるようなscienceを見出すことは、よく似ていると思います。

Sense of Wonderの目で皮疹をみたら、どのようにみえるでしょうか。皮疹は、静かに佇んでいます。よく観察すると実に多くのことを物語ってくれます。それから、自分の経験や知識をもち合わせて、心静かに皮疹を分解していくと、病理組織がみえてきます。病理組織をみていると皮疹がみえてきます。トルストイの民話に「人は神の愛によって生きる」と書かれていますが、皮疹は皮膚科医のSense of Wonderによって生きた姿を明らかにされるのではないかと感じています。

みえても、わからない皮疹、データが、まだまだあります。自分の中でだけ考えていると、どこにいるかわからなくなることがありますが、ときに、自分の殻を破って予想もしなかったところに着地できることがあります。それは、自分が考えついたわけではなく、すでにそこにあったのだ、という謙虚な気持ちになれると、言葉にできます。そこに至るまでの基礎体力を自力で習得していかなくはな

りませんが、学問を尊ぶ雰囲気の中にいれば、自然と身についてくるものだと思います。

私は、ただ静かに皮疹に向き合う、その喜びのためにだけ時間を使うことができた時期がありました。不自由な環境に身を置いていて、自ら環境を変えられる人もいるし、別の環境に移ることを選ぶ人もいます。自分が自分であることを支えてくれる居場所をもてることが、大切です。

ありがたいことに、“不思議を感じる心”をもっている尊敬できる師、同僚、友人に出会うことができました。仲間との語らいはとても楽しく、話が尽きません。そんな語らいの中からもscienceの扉は開くのかもしれません。

ささやかな人生の中で、scienceの扉の向こうの風景をみることができれば、と思っています。

